



公益社団法人 日本作曲家協会会報

No. 218

<http://www.jacompa.or.jp>

JAPAN COMPOSER'S ASSOCIATION

ソングコンテストグランプリ・2024

グランプリ・準グランプリ決定!

日本作曲家協会・日本作詩家協会共同企画「ソングコンテストグランプリ・2024」は今年も広く全国に作詩・作曲作品を募集した。

走 裕介(日本コロムビア)を対象歌手として、1月15日～3月15日にかけて詩の募集を行ったところ全国から1,189作品の応募があった。

そして3月27日、日本作詩家協会・日本作曲家協会合同コンテスト委員会による選考の結果「男が母を想う時」(作詩・佐藤勝美)、「孤狼^{ウルフ}よ走れ」(作詩・広瀬ゆたか)の2作品が最優秀作詩賞に決定。

この2編の詩を課題詩として4月19日～6月21日にかけて当協会のみならず広く一般からも作曲募集を行った。「男が母を想う時」会員94作品、一般90作品、合計184作品。「孤狼^{ウルフ}よ走れ」会員85作品、一般105作品、合計190作品。総合計374作品の応募があった。

今年は安藤篤人(東京新聞)、中本裕己(夕刊フジ)、吉田俊宏(日本経済新聞社)の3氏に選考委員を依頼。6月27日～6月28日の両日、当協会会議室において一次選考が行われた後、最終選考で日本コロムビア、走 裕介^{ウルフ}所属事務所、そして当協会ソングコンテスト委員会の厳正な選考の結果「男が母を想う時」は会員・西尾澄気氏が、「孤狼^{ウルフ}よ走れ」は会員・藤とおる氏が最優秀作曲賞を獲得した。

そして7月30日～7月31日レコーディング終了後、日本コロムビアにおける編成会議の結果「男が母を想う時」がメイン曲としてグランプリに決定した。

なお、このCDは9月25日、日本コロムビアより全国発売となる予定。



走 裕介

★グランプリ

「男が母を想う時」作曲:西尾澄気(協会員)／作詩:佐藤勝美

★準グランプリ

「孤狼^{ウルフ}よ走れ」作曲:藤とおる(協会員)／作詩:広瀬ゆたか

★優秀作曲賞

「男が母を想う時」岸田妙子、村田誠一(協会員)、舞 洋一(一般からの応募)

「孤狼^{ウルフ}よ走れ」大村友希、みちあゆむ(協会員)、永田政文(一般からの応募)

ソングコンテストグランプリ・2024

受賞に寄せて

◆グランプリを受賞して 西尾澄気

この度は、大変光栄な賞をいただき感激で胸がいっぱいです。

作曲を始めて数十年、先行きが見えずに戸惑う時期もありましたが、諦めずに続けてきて良かったとつくづく感じています。

「男が母を想う時」の詩は母の優しさと母への切ない想いが表現されていて、詩全体からあふれ出す感情や映像的な場面をメロディーからも感じていただけるように心がけて作曲しました。この詩を読むたびに大切に育ててくれた母のことを思い出します。

走 裕介さんにこの曲を歌っていただけること、そしてたくさんの方々に聴いていただけることをとても幸に思います。

これからも皆様に支えていただきながら、作曲活動に励んで参りたいと思っています。本当にありがとうございます。

◆準グランプリを受賞して 藤 とおる

この度は、素晴らしい賞をいただき、驚きと喜びで大変感激しています。

第一報のお電話を頂いたときは夢か現実か一瞬混沌といたしました。

広瀬ゆたか先生の書かれた「^{ウルフ}孤狼よ走れ」。素晴らしい作品の言葉に導かれるように一気にメロディが出てきました。

そういった意味で、受賞は詩から多大な力を頂いたものだと感じています。

レコーディングに立ち合わせていただいた際、編曲の

石倉先生をはじめ、多くのミュージシャン、レコーディングエンジニアの方、作詩家協会・作曲家協会の理事の先生方、スタッフの皆様、そして走 裕介さん。

こんなに沢山の方に見守られながら楽曲が作られてゆくこと、またそこに参加させていただけたこと、本当に幸せで胸がいっぱいです。このような経験をさせて頂いたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

ソングコンテスト選考にあたって

◆田中亮平(コロムビアレコード ディレクター)

この度は「ソングコンテストグランプリ・2024」へたくさんの方の詩曲をご応募いただき誠にありがとうございました。日本作詩家協会・日本作曲家協会の両団体の先生方と一緒に皆様から提供いただいた作品を厳正かつ非常に楽しんで拝見・拝聴いたしました。詩の世界観やフレーズ、曲のメロディや展開一つ一つから皆様の目や耳を通した「走 裕介」の姿を垣間見れた気がします。

グランプリ・準グランプリに選出した「男が母を想う時」「^{ウルフ}孤狼よ走れ」はタイトル・詩の中に男の不器用さと繊細さがうまく表現されており、曲にも五線譜からふっと歌が聞こえてくるような独自かつ端正な佇まいがありました。今「走 裕介」に歌唱させたい楽曲だと強く感じました。演歌・歌謡曲の制作においては新鮮さと安心感が常に付きまとうと思います。目新しい表現などをいかに安心して聴けるものに落とし込むか。模範的な解は過去のヒット曲が示してくれていますが、絶対的な正解がない問いかけだと思っています。今後とも皆様の創作が日本の音楽に新たな解答を届けてくださることを切に望んでおります。

スタジオにて



「男が母を想う時」

左から 西尾澄気、走 裕介、佐藤勝美、石倉重信



「^{ウルフ}孤狼よ走れ」

左から 藤 とおる、走 裕介、広瀬ゆたか、石倉重信

ソングコンテストグランプリ・2024

選考にあたって寸評

◆安藤篤人(東京新聞)

応募者が課題詩をどう受け止め、解釈して曲に落とし込んだのか。審査の基準軸をそこに置いた。

「男が母を想う時」は、孝行できなかった母への懺悔の気持ちを表している。懺悔にこだわって暗いだけの曲調では耳にも心にも響かないという難しさがあったと思う。

「孤狼よ走れ」は、親不孝になるかもしれない将来に向かって進む姿を描いている。孤狼を「ウルフ」と読ませたこともあって、疾走感をどう表現できるかがカギだった。

奇をてらわず、素直に仕上げた作品が意外に少なかった一方で、どの応募作品にも、作者がもがきながら歌詩と向き合った痕跡が見受けられたのはよかった。

◆中本裕己(夕刊フジ)

文字には魂が宿る。網走からやってきた愛弟子から「網」というクビキを解き、「走」らせた船村徹師の想いを次代に紡ぐ2曲が誕生した。力作ぞろいの楽譜の中には、『男が母を想う時』の詩情から、つい河島英五が聞こえてきたり、『孤狼よ走れ』の駆ける語感に「あしたのジョー」を重ね合わせたりする応募者も少なくなかった。だが、審査員の意見が一致したのは、いずれでもない。選ばれた曲

からは、「時代おくれ」ではない、明日に向けた灯りがほの明るく見えた。「ジョー」のように決して燃え尽きはない、不屈の闘志が軽やかに滲んでいた。艶のあるスケール感で歌いあげる走裕介にふさわしい。それにしても、膨大な候補曲を聴き続ける審査でこれほど脳が糖分を欲するとは。歌詩を眺めながら菓子が手放せなかった。

◆吉田俊宏(日本経済新聞社)

本コンテストが「曲先」であれば、別の応募作が入選していたかもしれない。その意味で才能を感じさせる作品はほかにもあった。しかしながら課題詩があり、歌い手もあらかじめ決まっている本コンテストでは、詩の世界観、歌手の個性を踏まえて作曲する必要がある。詩が物理的に長ければ、緩急をつけるなど、曲の構成も考慮しなければならない。ところがそのあたりをクリアした応募作は決して多くはなかった。あえて詩のムードや歌手のイメージとは異なる曲を付けて斬新さや意外性を狙った応募者もいたのかもしれないが、残念ながら選考委員にその意図は伝わらなかった。豪華なアレンジを施した凝りに凝った曲、部分的に良いメロディーを持っている曲もあったが、必ずしもそうした作品が入選したわけではない。課題詩の言葉や世界観を無理なく、的確に表現した作品に軍配が上がった。

選考風景



左から 中本裕己、安藤篤人、吉田俊宏の各氏

優秀作品賞(会員のみ)



岸田妙子



村田誠一



大村友希



みちあゆむ

「日本作曲家協会音楽祭・2024」出演歌手

10月7日(月)東京北区・北とびあ「さくらホール」において開催される「日本作曲家協会音楽祭・2024」の出演者が決定。今回も「日本作曲家協会・奨励賞」「日本作曲家協会・3賞」そして、長年にわたり目覚ましい活躍で歌謡界をリードする歌手に「日本作曲家協会・特別選奨」を授与しステージを飾っていただきます。併せて、ソングコンテストグランプリ曲の歌唱など盛り沢山の内容となります。

日本作曲家協会音楽祭・特別選奨



前川 清

(テイチクエンタテインメント)



長山 洋子

(ビクターエンタテインメント)

ベストカラオケ賞

「金沢望郷歌」

作曲 弦 哲也/作詩 五木寛之/編曲 前田俊明・鈴木 豪



松原 健之

(テイチクエンタテインメント)

ベストパフォーマンス賞

「純情レボリューション」

作曲 幸 耕平/作詩 及川眠子/編曲 萩田光雄



藤井 香愛

(徳間ジャパンコミュニケーションズ)

ロングヒット賞

「会いたい」

作曲 財津和夫/作詩 沢村ひろ/編曲 芳野藤丸



澤田 知可子

(ユニバーサルミュージック)

日本作曲家協会音楽祭・奨励賞



梅谷心愛

(徳間ジャパンコミュニケーションズ)

「磐越西線ひとり」

作曲:弦 哲也
作詩:石原信一
編曲:猪俣義周

城 南海

(テイチクエンタテインメント)

「爛漫」

作曲:笹川美和
作詩:笹川美和
編曲:松岡モトキ・きなみうみ

寺本圭佑

(ユニバーサルミュージック)

「ほおずり」

作曲:小田純平
作詩:鮫島流星
編曲:矢田部 正

原田波人

(日本クラウン)

「万燈籠」

作曲:大谷明裕
作詩:北爪 葵
編曲:夏目哲郎

ソングコンテストグランプリ・2024 表彰・発表

「男が母を想う時」

作曲:西尾澄気
作詩:佐藤勝美
編曲:石倉重信

走 裕介

(日本コロムビア)



「日本レコード大賞」新企画！

この度、当協会主催「日本レコード大賞」において制定・授賞している「日本作曲家協会選奨」ならびに今年度より新たに制定する「日本作曲家協会名曲顕彰」の選考を「会員の皆様」の投票により決定することとなりました。

近々、詳細のお知らせと投票用葉書をお送り致しますので、御協力の程宜しくお願い申し上げます。

日本レコード大賞実行委員会